



ソフトバンクグループ株式会社

2025年3月期 第2四半期 決算説明会

2024年11月12日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor) をご参照下さい。

当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を

避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」）、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」）及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」）を含みます。

SB ファンド（ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。

[登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO
常務執行役員 経理統括
SB Investment Advisers &
SB Global Advisers CFO
Arm IR Vice President

後藤 芳光（以下、後藤）
君和田 和子
ナブニート・ゴビル
イアン・ソントン

登壇

司会： それでは後藤より、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）の連結決算概要および事業概要につきましてご説明申し上げます。

後藤： 今回、非常にいい数字で着地できたなと思っています。何となく一つやり残した感があるのは、福岡ソフトバンクホークスは残念ながら日本一を逃してしまいました。これは大きな忘れ物として、来年またみんなで頑張りたいと思います。負けに不思議の負けはなしとよく言ったものだなと思います。また、オフにしっかり勉強したいと思います。

決算は、今回どちらかという勝ちなので、勝ちにも不思議の勝ちはなしということで、いろいろ説明させていただければと思います。

では、早速説明に入ります。ハイライトからです。まず、純利益は1兆円超えという着地です。主に投資損益は非常に順調な四半期でした。特にこの2年ぐらい、私たちも課題として常に注視し続けてきたソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）も、この四半期は非常に良かったです。また、Tモバイルも株価が順調で、決算に非常に貢献してくれました。

次に、まさにわれわれの企業価値そのものと言ってもいいですが、Net Asset Value（以下「NAV」）です。NAVは29兆円というのが9月末の着地です。その後もマーケット環境が続伸していますので、足元のNAVは31兆円ぐらいです。

また、SVFは投資利益として6,104億円を計上していて、累積の投資損益も黒字転換しました。これも象徴的なメッセージかなと思います。また、アームの業績は引き続き非常に堅調、かつ順調です。

これらの総括として、財務健全性は引き続き盤石です。今後のさまざまなAI投資に備えた財務余力を十分に保持しており、こういった体力をベースに、さまざまなチャレンジができればなと考えています。

連結業績

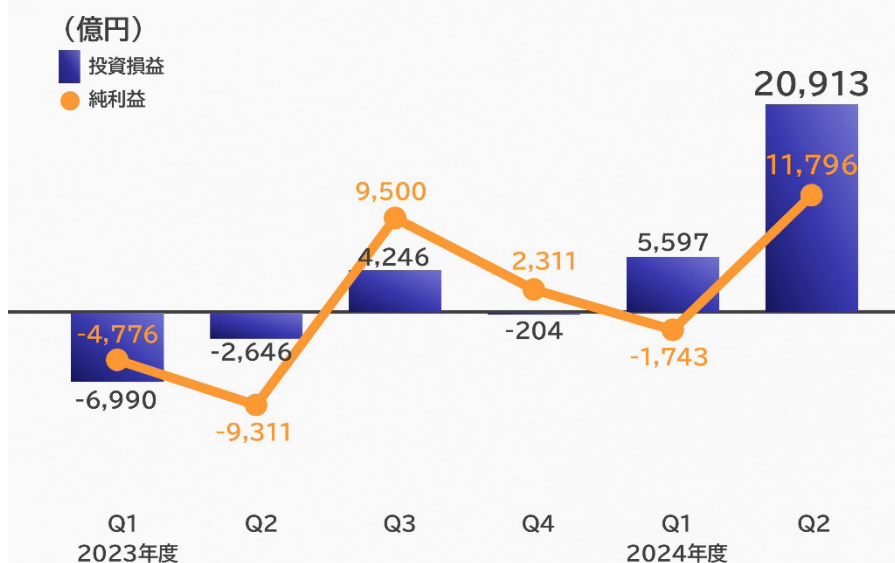
(億円)	2023年度 上期	2024年度 上期	増減額
売上高	32,271	34,699	+2,429
投資損益	-9,636	26,510	+36,146
税引前利益	-9,074	14,611	+23,686
純利益	-14,087	10,053	+24,140

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

5

では、連結業績から。今申し上げたとおり、総括として純利益は上期で1兆円超え、2023年度上期との比較で2兆4,000億円のプラスということで、これもすべて投資損益の好調さからくることです。この上期の投資損益が2兆6,000億円超えで、2023年度上期との比較でプラス3兆6,000億円強です。この中の数字については少し説明したいので、後ほどスライドを用意しています。

投資損益および純利益 (四半期推移)



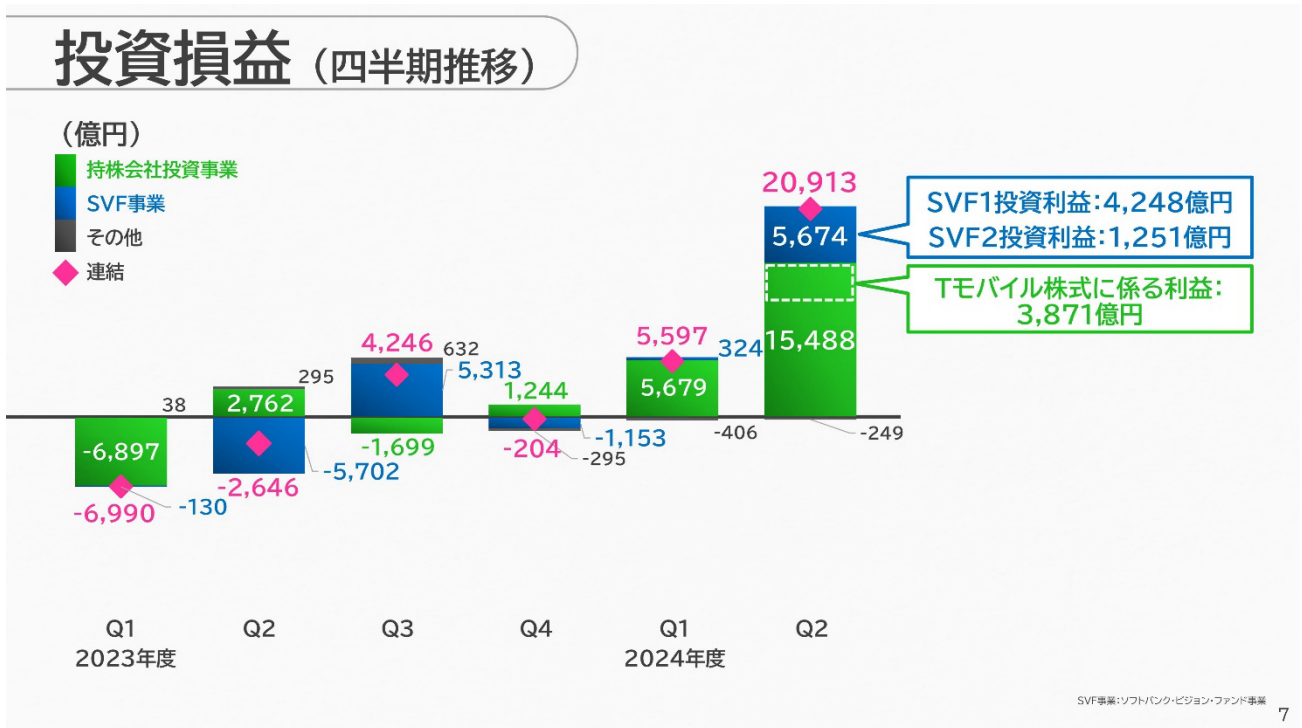
投資損益
大幅増益

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

6

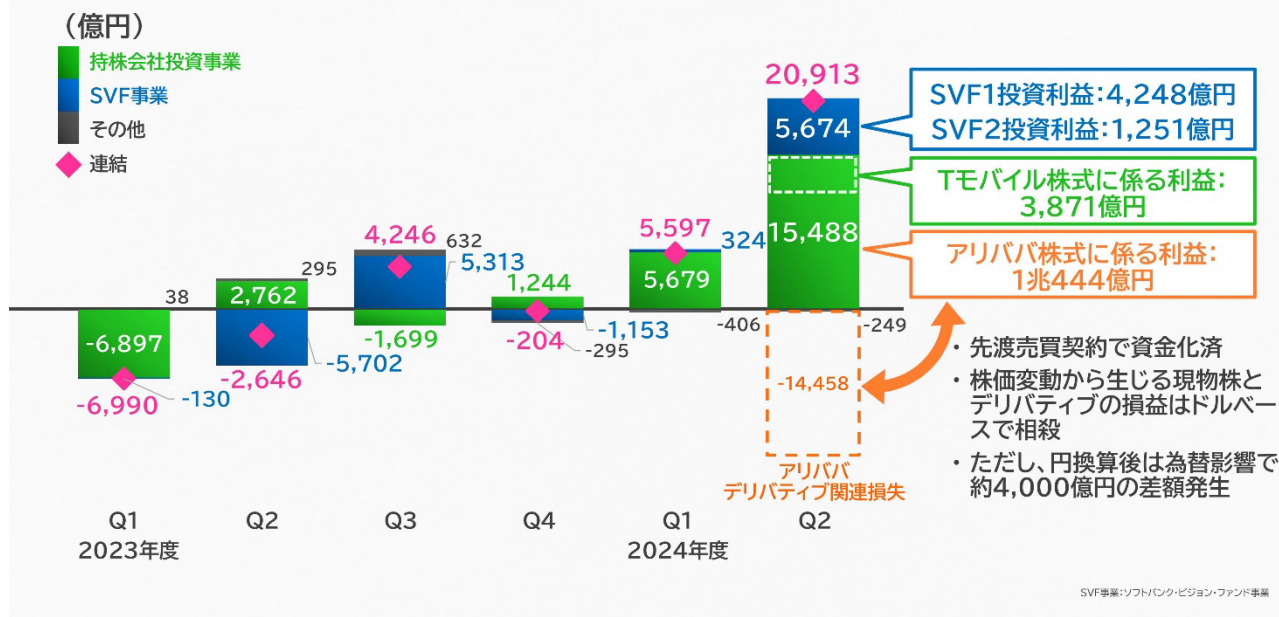
投資損益と純利益の四半期ごとの推移です。投資損益が2兆円超え、純利益は1兆円超えというレベルです。

四半期別にもう少しブレークダウンをしてみます。



今四半期は2兆円超えの投資利益ですが、大きな貢献がこのブルーのところ、5,670億円のSVF事業です。それから、緑の中に点線でくくっているところがTモバイルで、3,800億円強という貢献でした。SVFとTモバイルを合わせて1兆円弱の非常に大きなパフォーマンスということです。

投資損益 (四半期推移)



残りは何かということですが、私どもはずっとアリババ株を保有していますが、これは財務的、資金的にはすべて調達完了しており、その調達手法として先物の売却を行っているわけです。あらかじめ株価を決めて、将来の売却を決めて、資金は先にとっているのです。決済前の株がまだ残っているため、アリババ株にかかる評価益を時価評価した結果、1兆円ぐらいの投資利益が計上されています。

先渡売買契約締結後に株価が上昇しても、会計上は持っているアセットの評価が上がりますが、資金決済の金額に影響を与えません。また、決済されるまではアセットの評価が上がっても、デリバティブの調整が発生します。これがドルベースですとちょうど1兆円分ぐらいが相殺される形になりますが、為替の影響で円換算後は4,000億円の差額が発生しています。グラフの緑のところに示しているアリババの利益は約1兆円強ですが、下のデリバティブ関連損失のところは、4,000億円の為替影響を入れて1兆4,000億円とあります。これをネットするとわれわれの真の状態が見えてくるかなということなのです。

従いまして、投資損益がプラス2兆円とあるのは、アリババの決済を除いて、SVFとTモバイルで約1兆円前後の大きな貢献があった期だと。それにしても、左の2023年の四半期から連続で見ただけだと、非常に順調に右肩上がりに推移しているということで、私どもとしては非常に満足する四半期だったということなのです。

重要指標 (2024年度Q2)

	2024年6月末		2024年9月末
NAV (時価純資産)	35.3兆円	▶	29.0兆円
LTV (純負債/保有株式価値)	7.8%	▶	12.5%
手元流動性	4.6兆円	▶	3.8兆円

NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年6月末時点)」/「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年9月末時点)」を参照
手元流動性=現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+債券投資+コミットメントライン未使用枠、SBG単体ベース(SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物並びに債券投資を含む。)

10

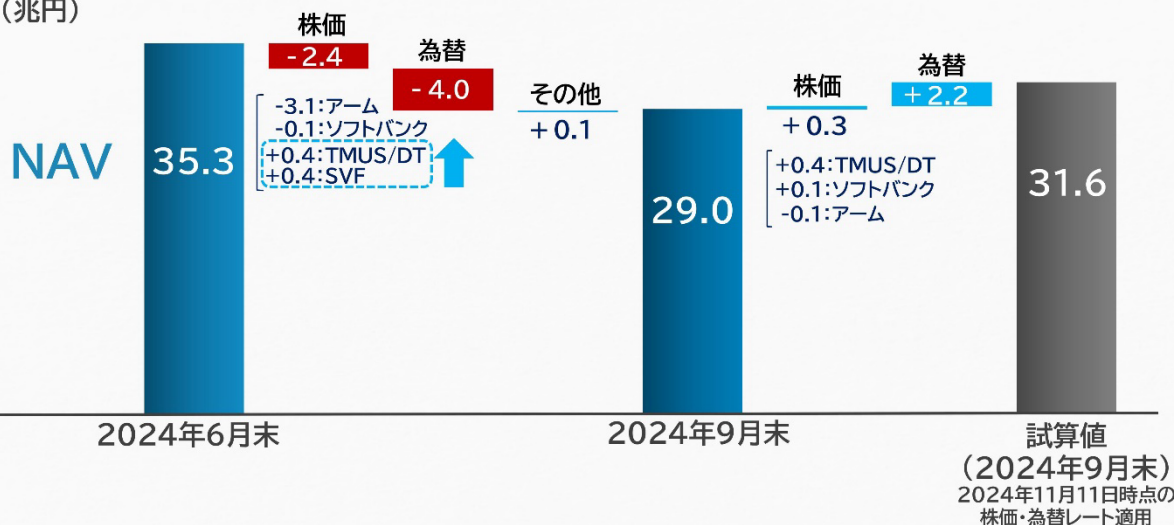
さて、重要指標です。項目が三つありまして、NAV、Loan to Value（以下「LTV」）と手元流動性です。

NAVは、9月末の数字で29兆円、LTVは12.5%、そして手元流動性は3.8兆円です。

実はNAVだけではなくLTVや手元流動性にも、9月末以降のマーケットの好調さはプラスに寄与していて、先週末ぐらいの数字ですと、LTVは多分12%を切っています。11%ぐらいでしょうか。それから、手元流動性も為替が好調に推移して、直近の数字では4兆円を超え、ポジティブに変化しています。

NAV増減要因

(兆円)

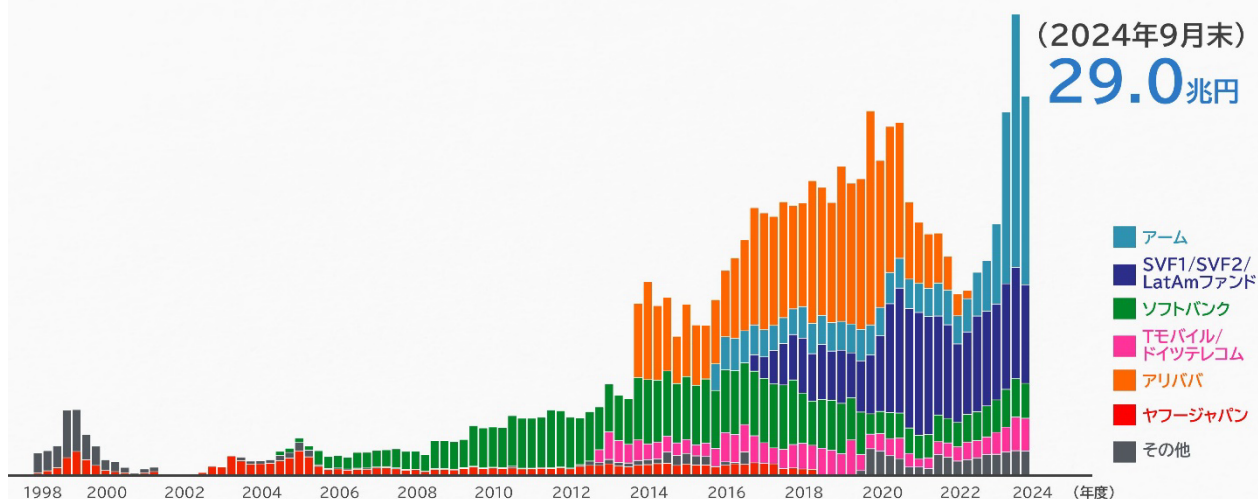


NAVの詳細は、Appendix「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年6月末時点)」「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年9月末時点)」「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年9月末 試算値)」を参照
 TMUS/DT: Tモバイル/ドイツテレコム、SVF: SVF1/SVF2/LatAmファンドの合計
 為替: 2024年9月末時点の現地通貨建ての保有株式原簿、有利子負債および子元流動性について比較対象時点の為替レートで円換算したときのNAVとの差額。ただし、SVF1-2/LatAmファンド、SB Northstarは米ドル建てとみなして当該
 2024年9月末試算値に関する情報は、2024年9月末時点の資産・負債構成は変わらない前提で、同年11月11日時点の株価・為替レートを適用して試算した参考値であり、将来の値を保証・示唆するものではない。

11

NAVが若干減少している要因としては、アームや、ソフトバンク株式会社などが若干減少しています。それに対し、SVFやTモバイルなどは上昇しています。あとは為替の影響で、減って戻ってとなっています。

NAV推移(1998年度~)



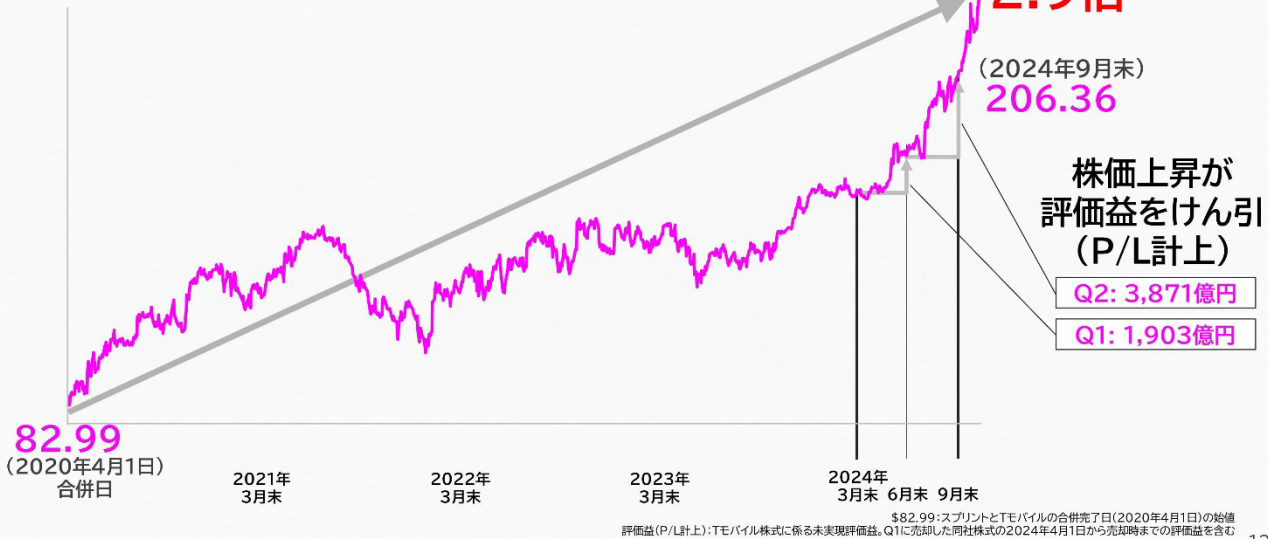
各四半期末時点の保有株式原簿の割合で算出
 NAVの詳細は、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV-LTVの定義及び算出方法」を参照
 NAVに関する情報は、進捗のイメージを説明する目的で提供される参考値であり、将来のNAVを保証・示唆するものではない。

12

1998年度からのNAVの推移をみていただくとこのようになります。9月末で29兆円、(決算発表前日時点の試算値で)32兆円弱という数字でご覧いただければ、今回、当社の成長トレンドを崩さずにしっかり評価アップできた期だにご評価いただけたと思います。

Tモバイル株価

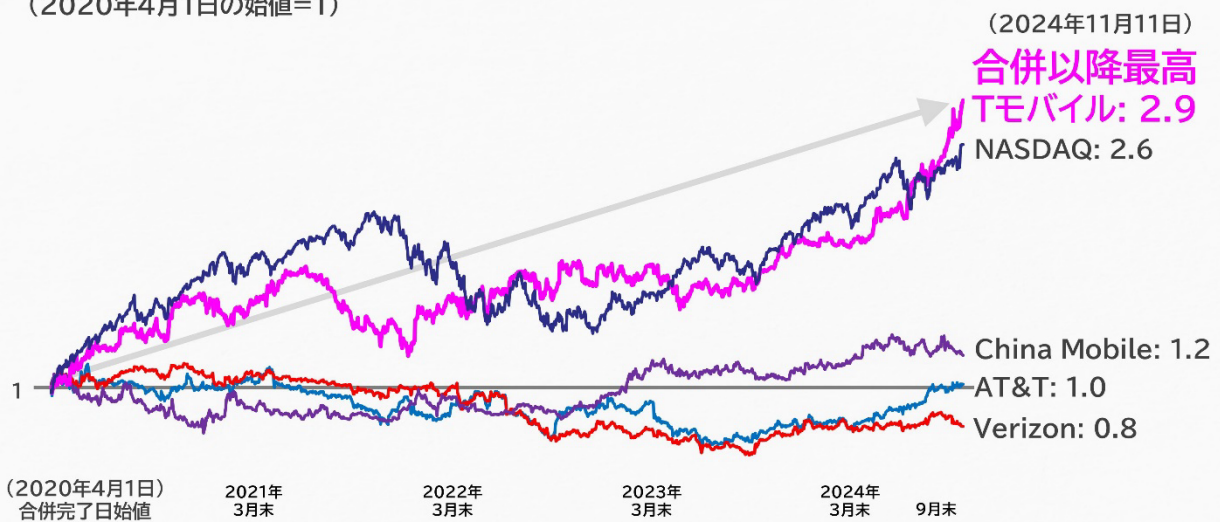
(\$)



われわれがスプリントを買収したのが2013年、その後経営の立て直しなどをしながら、2020年にスプリントはTモバイルと合併しました。その頃の株価が82米ドルだったのですが、先週末、上場来高値をつけて238.32米ドル、約3倍にまで成長してきています。この評価アップは、私どもの財務会計にも非常にポジティブに寄与しています。

Tモバイル株価 指数比較

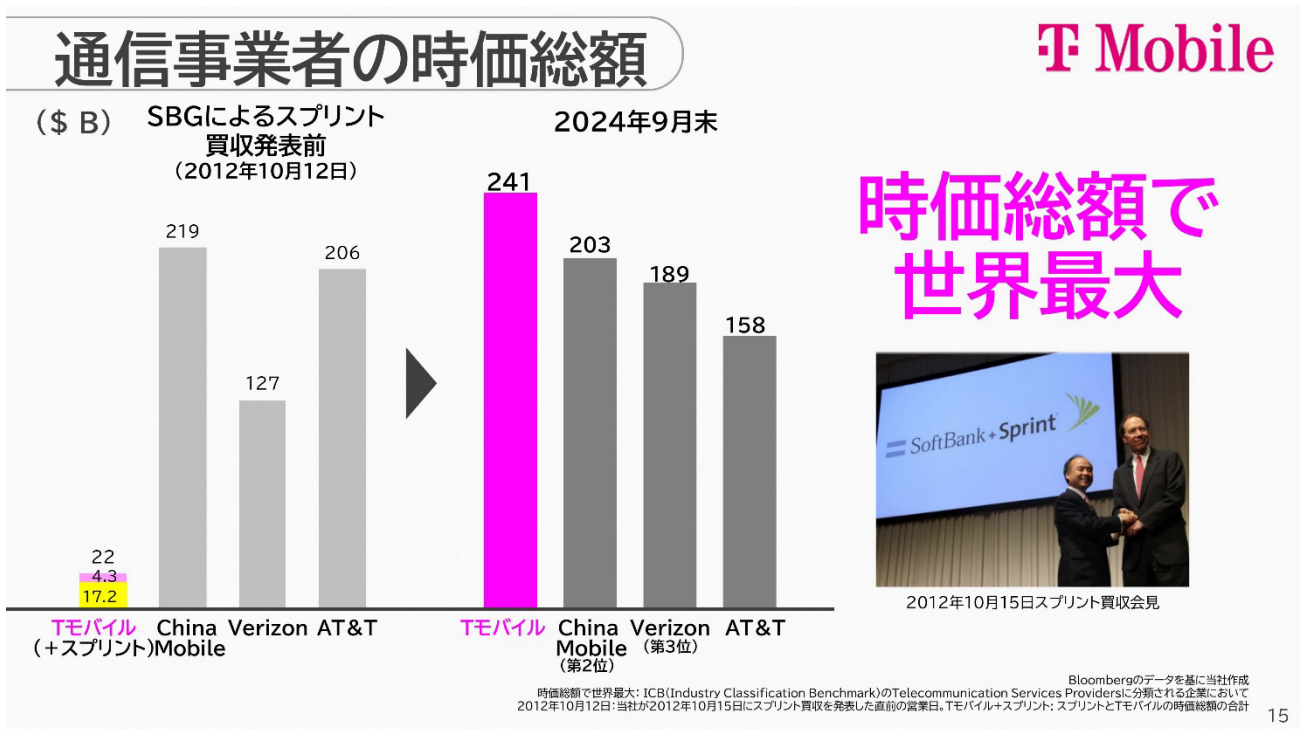
(2020年4月1日の始値=1)



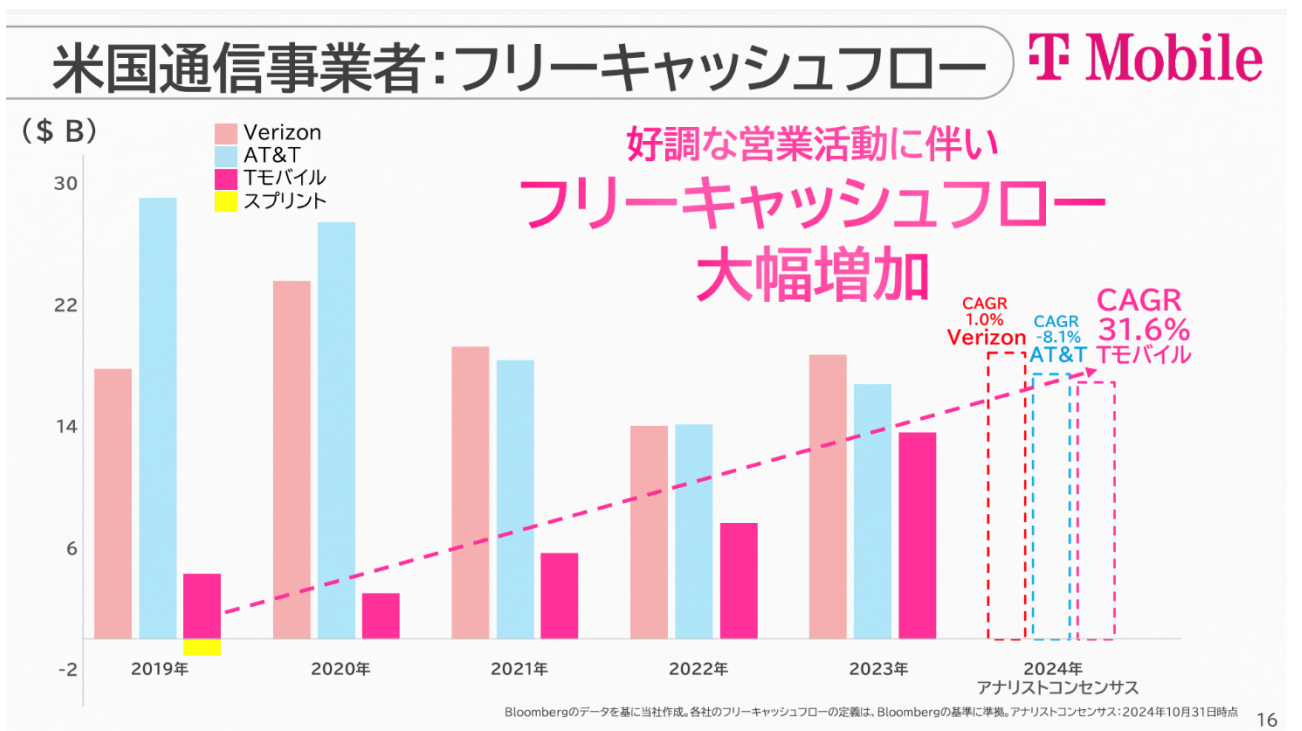
\$82.99:スプリントとTモバイルの合併完了日(2020年4月1日)の始値
各インデックスおよび銘柄の2020年4月1日の始値を1として指数化。Bloombergを基に当社作成

他のキャリア、アメリカ国内のAT&Tとベライゾン、それから世界最大であったチャイナ・モバイル、さらにテック系指標としてのナスダック、これらを並べて合併時から指数で比較してみても、

通信大手を大きく凌駕している素晴らしいパフォーマンスです。ナスダックと比較してもアウトパフォームしています。

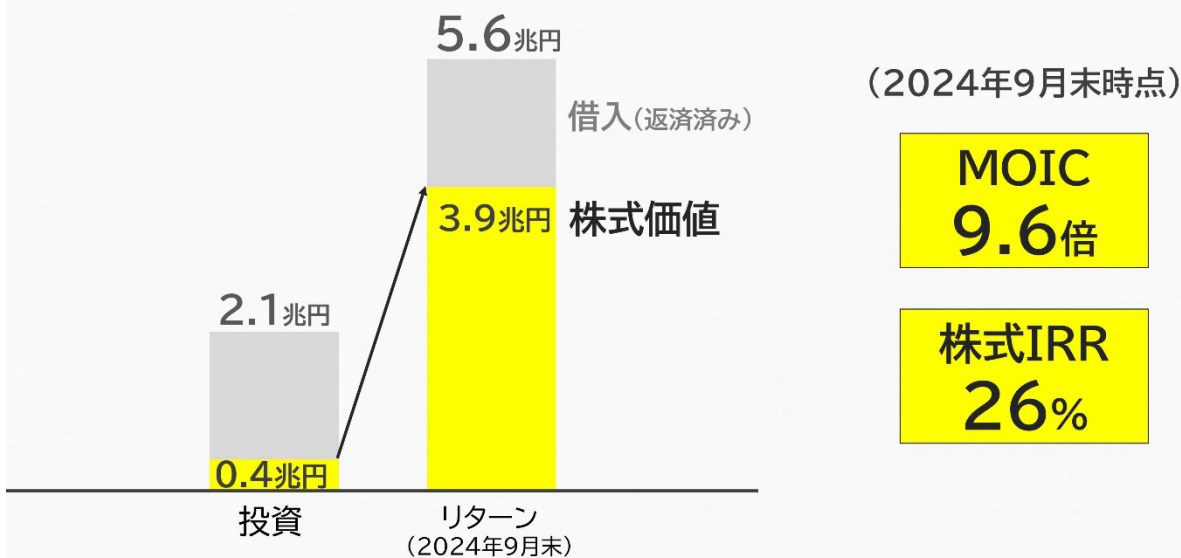


このような状況ですので、私どもの買収時にさかのぼって時価総額を見ていただくと、当時はこの左側のちょっとした220億米ドルという数字でした。ベライゾンやAT&Tがはるかに上だったわけです。この9月末の数字で、Tモバイルはベライゾン、AT&T、それまで世界最大のチャイナ・モバイルも大きく超えまして、今、2,400億米ドルという評価値です。



この成長はどこから来るかという、やはりまずフリーキャッシュフローです。ピンクの数字を見てほしいのですが、順調にフリーキャッシュフローが増加してきています。それに対しベライゾンとAT&Tの米国大手2社は、この4~5年、どちらかという減少傾向にある。こうした好対照な3社のキャッシュフローの状況があるかなと思います。

スプリント(Tモバイル)投資の実績



投資やリターンの前提は、Appendix「注記」の投資のトラックレコードを参照

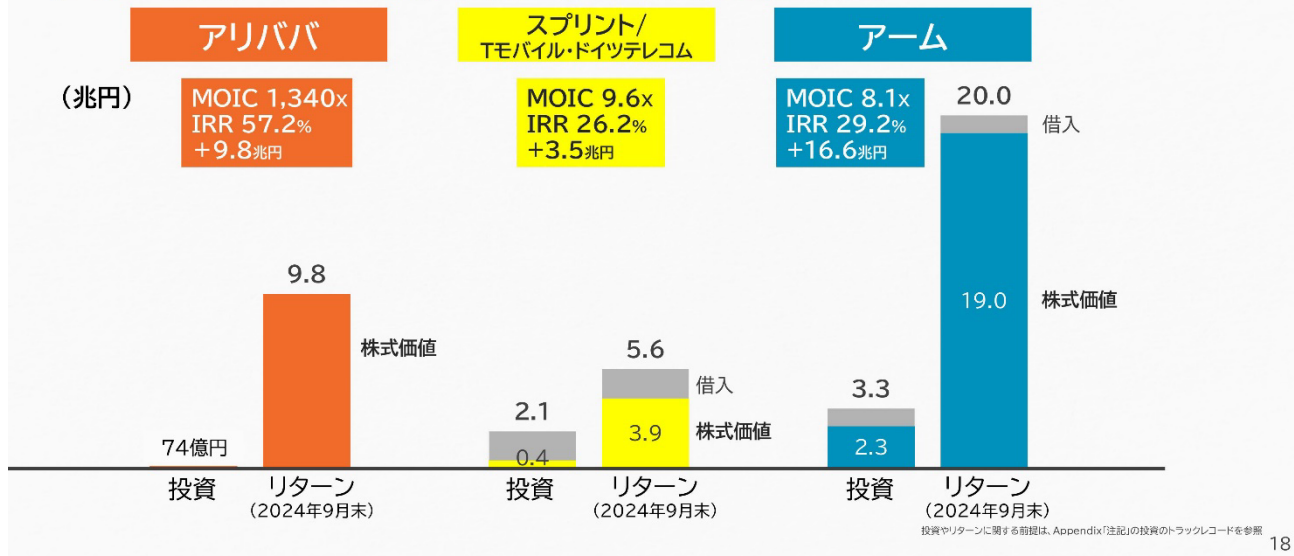
17

われわれの投資実績で見ていただきますと、エクイティ投資というのは、約4,000億円です。レバレッジをかけた2兆円は借入れですが、返済済みです。株式価値は0.4兆円から3.9兆円ということで、MOIC（投下資本倍率）は10倍弱、IRRで見てもエクイティIRRで26%と、結果としてこのような高パフォーマンスでディールを終えることができます。

いまさらながら少し説明させていただいたのは、今回の決算の純利益の増加の中で、Tモバイルの貢献が大きかったということです。そして、まだ世の中では、ソフトバンクはスプリントで失敗したのではないかと考えている方が、非常に残念ですが結構いらっしゃるのです。これは私どものIR不足もあって、一骨一骨（いっこついっこつ）まだこれから丁寧にやっていますが、まずは今日、今一度スプリントへの投資というのはこのような成功案件であったということを宣言しておきたいと思います。

投資のトラックレコード

大型投資での継続的な投資実績



ソフトバンクとしての投資の成功三兄弟といえ、アリババ、アームにスプリントということになります。アリババの場合、当初の投下資本があまりにも小さいので、投下資本倍率でいうと1,300倍になっていますがこれが事実です。

また、アームに関して言うと、3.3兆円の投下資本のうち2.3兆円がエクイティですから、MOICとしては8倍程度ですけれども、何しろこれは実額としての貢献、効果が大変大きい。さらに今後のAI成長戦略の中の、まさにアームがわれわれの生態系の中心であるということから、今後に大いなる期待も持っているところです。

為替影響 (2024年度上期)

円高はNAVと資本にマイナスの影響

(2024年3月末) (2024年9月末) (2024年11月11日)
1米ドル= 151.41円 → 142.73円 → 153.14円

NAVへの影響

-1.9兆円

会計への影響

資本

-1.3兆円

連結純利益

+0.3兆円

NAVの影響:2024年9月末時点の現地通貨建ての保有株式価値、有利子負債および手元流動性について比較対象時点の為替レートで円換算したとキのNAVとの差額。ただし、SVF1-2-LatAmファンド・5S Northstar(米米)も建てておこなって計算
NAVの詳細は、Appendix「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年9月末時点)」を参照
会計への影響:2024年度上期の連結損益計算書の為替差損益および連結財政状態計算書のその他の包括利益累計額に含まれる在外営業活動体の為替換算差額の増減額

19

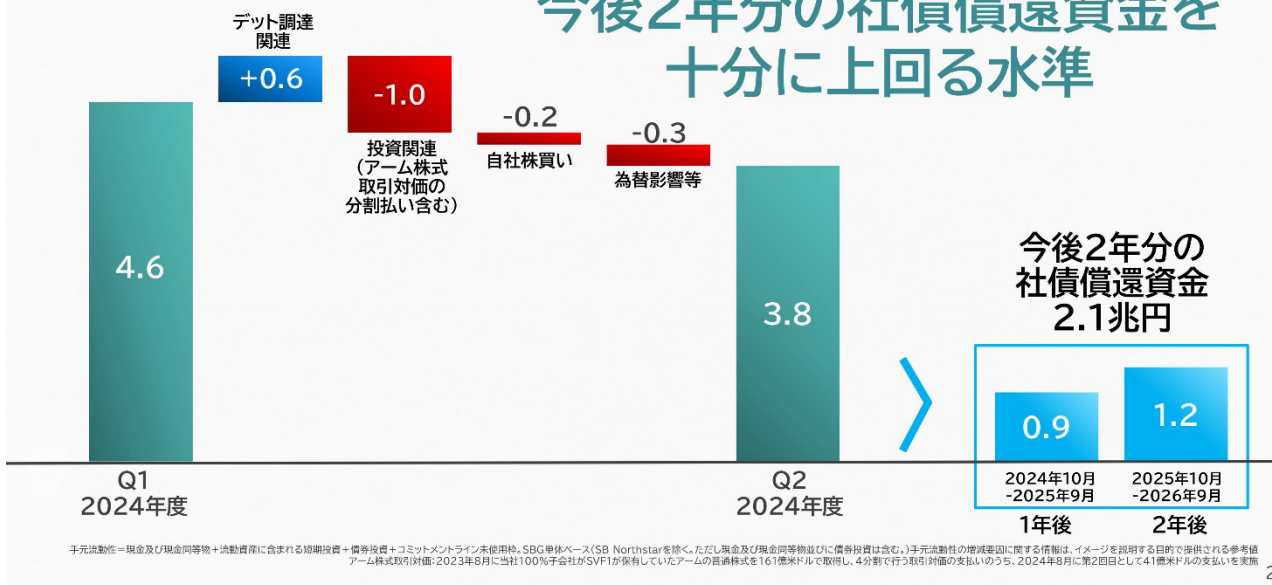
さて、為替がかなり動いていました。第2四半期ということで半期の動きを見ていただくと、3月末に1ドル=151円だったのです。第2四半期決算の締め、9月末は1ドル=142円でしたので、そこで締めますと、こちらの表のように、NAV上は1.9兆円のマイナスインパクト。一方、会計への影響として資本も1.3兆円のマイナスで、純利益としてはプラスの0.3兆円というのが、この11円ぐらいの為替の動きの結果なのです。

ただ足元では1ドル=153円を超えてきています。ということは、この表で示している数字は全部元に戻ったということでもありまして、為替の影響というのは市場環境変化の一つとして、私たちはそれを受け止めながら中長期の投資パフォーマンスを見ていくということになります。

手元流動性の主な増減 (2024年度Q2)

(兆円)

今後2年分の社債償還資金を十分に上回る水準



20

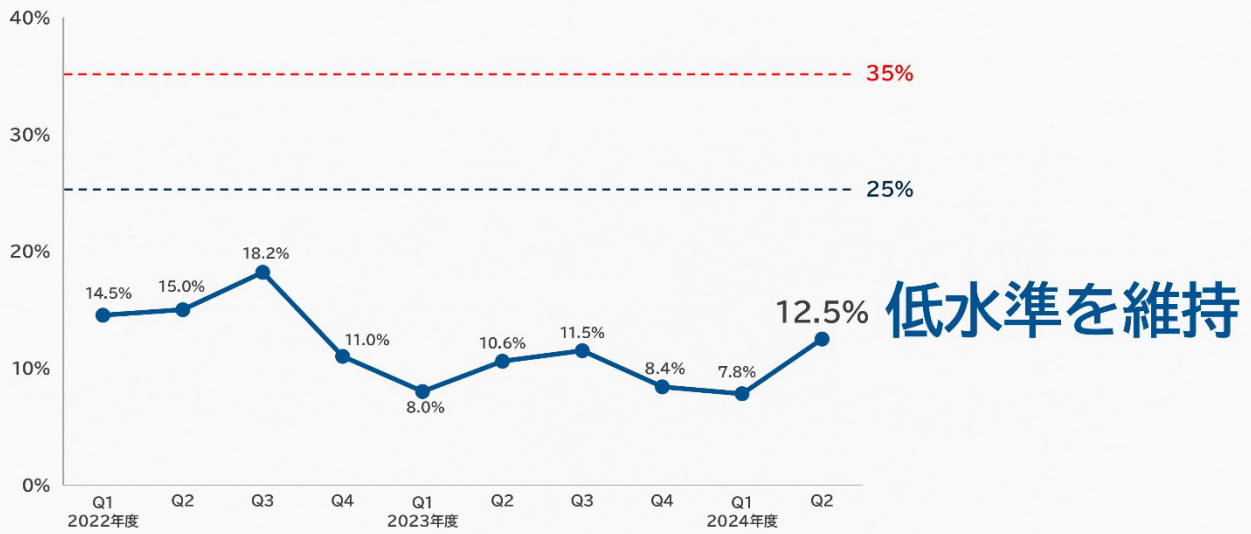
手元流動性についてご覧いただきますと、昨年のアームの上場に先立ち、私たちは SVF が保有していたアーム株を買い取っており、その支払いを繰り延べています。この四半期には、アーム株式を取得した対価の支払分や、その他投資の支払いとして約 1 兆円程度の支払を行っています。

一方で調達も、負債調達、社債調達を実施しています。資金上はプラスになりますので、これをネットすると期末時点の手元流動性残高は 3.8 兆円ぐらいです。ただ、これは 9 月末ですので、足元でいくと為替効果もあり 4 兆円を超えているということです。

この数字から、私どもの財務ポリシーである常に 2 年分の社債償還資金を手元流動性で維持していくというお約束を、しっかり果たせていることはご覧いただけるかと思います。2 年分どころか、4~5 年分くらいの償還資金があるということです。

LTV

アセットバック・ファイナンス除く

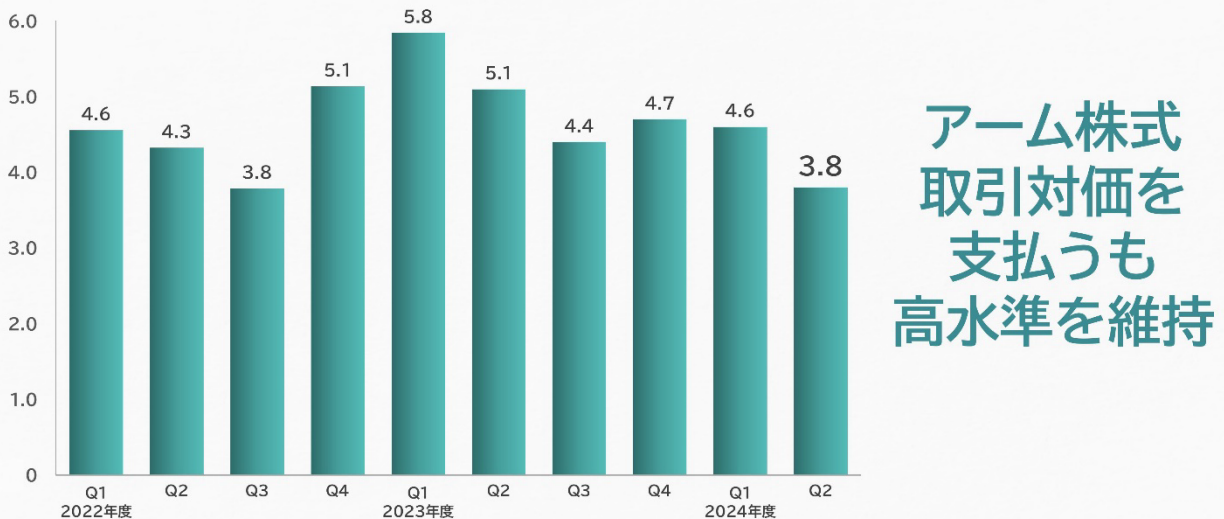


各四半期末時点
LTVの算出方法については、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照

重要指標のもう一つが、LTVです。いわゆる担保掛目みたいなものです。こちらも12.5%と極めて低水準かつ安定した推移を維持しています。足元は12%を切っていて、より安全ということです。

手元流動性

(兆円)



各四半期末時点
手元流動性=現金及び現金同等物+預貯資産に含まれる短期投資+債券投資+コミットメントライン未使用分、SBG単独ベース(SB Northstarを除く、ただし現金及び現金同等物並びに債券投資を含む)
アーム株式取引対価:2023年8月に当社100%子会社がSVFIが保有していたアームの普通株式を161億米ドルで取得し、4分割で行う取引対価の支払いのうち、2024年8月に第2回目として41億米ドルの支払いを実施

手元流動性のヒストリーはこのような推移です。安定して大体4兆円前後の手元流動性を維持し続けています。

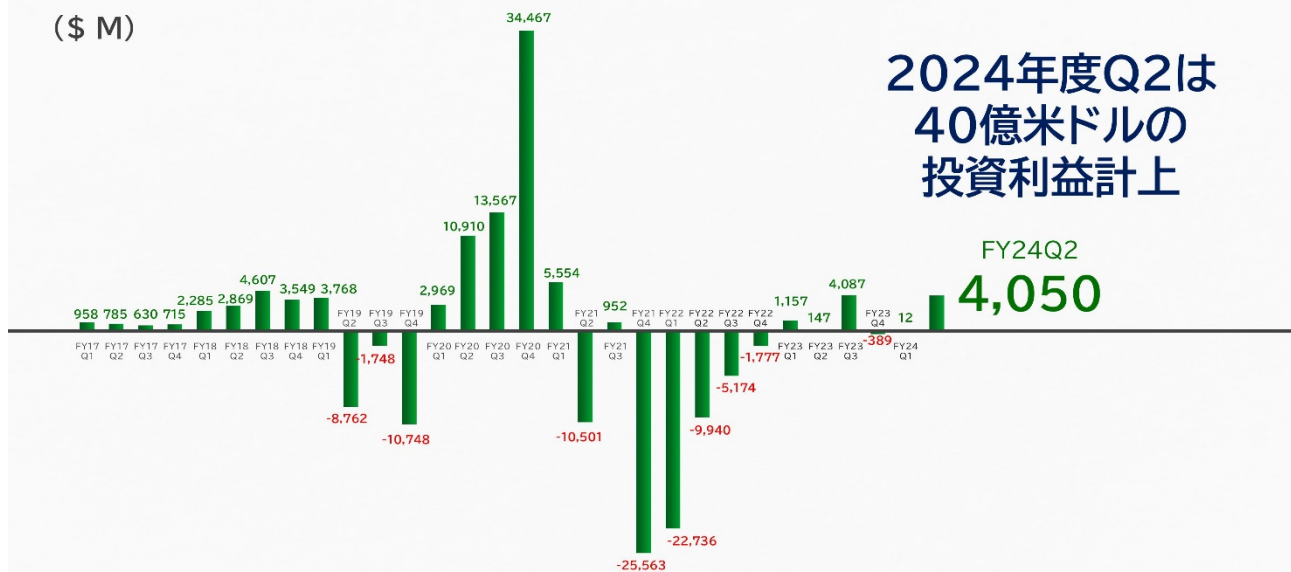
SVF:投資損益 (四半期)

USDベース
(SVFセグメント)

(\$ M)

2024年度Q2は
40億米ドルの
投資利益計上

FY24Q2
4,050



投資損益(四半期):SVF事業からの投資損益(セグメント情報)の四半期計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

さて、次に SVF の説明です。まず四半期ベースの投資損益のヒストリーですが、この四半期、40億米ドルという非常に好調な数字を出すことができています。

これは SVF1、SVF2 の両方の利益を足しています。過去数年間の歴史でいくと、大きく伸びた時期もあれば、大きく下落した時期もありますが、特に大きく下落した時期に関しては、われわれは常に前出しで、保守的に評価減を行ってきています。その評価減の歴史をちゃんと踏まえた上で、今回しっかりと利益を出すことができていますので、今後も保守的なスタンスはしっかり維持しながら、皆さまにこの評価の金額を見ていただきたいと思います。

SVF:投資損益 (四半期)

USDベース
(SVFセグメント)

SVF2の投資損益大幅改善

(\$ M)

SVF1



SVF2



投資損益(四半期):SVF1およびSVF2からの投資損益の四半期計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

25

SVFは、最初に投資に取り組んだSVF1と、SVF1の投資終了後に次の投資ピークルとしてSVF2がスタートしました。左側のネイビーブルーのほうがSVF1の投資損益でして、上場株を中心に非常に好調な推移を続けてきています。

ただ、今回の注目は右側のSVF2のところですか。SVF2は投資した時期が、今から3年ぐらい前が中心でしょうか。プライベートエクイティとしての評価額が相対的に高い時期だったと思いますし、その後の相場の低迷等から影響は受けてきていました。依然として、プライベートのままの投資アセットが多いファンドですが、今回、久しぶりに改善をしてくれています。ポートフォリオの中身も、今後期待できる投資先が、期待どおりにしっかり成長してくれているなという印象を持っています。

SVF1:投資先パフォーマンス

(\$ B)	投資額	公正価値	未実現評価損益 (2024年度Q2)	主な投資先の状況
	1.7	8.6	+1.2	堅調な収益成長を継続 前年同期比25%の増収を達成
	12.1	4.6	+0.5	2024年4-6月期は取引数、取引額 ともに過去最高を記録
	0.7	0.4	+0.2	過去最高の粗利益(前年同期比36% 増)および調整後EBITDAを達成
その他公開投資先	6.7	6.3	+0.9	
公開投資先合計	21.2	19.8	+2.8	
未公開投資先合計	24.2	24.1	-0.0	
SVF1合計	45.4	43.9	+2.8	

2024年9月末時点で保有する投資の内訳。投資先の公開/未公開の区分は、2024年9月末時点の状況に基づく。公開投資先には店頭市場で取引されている投資先を含む。
 (出所)各社の最新のプレスリリースおよび決算説明会資料に基づいた。SBIAおよびSBGAによる分析
 本スライドに記載の情報は、SVF1についてのみ言及されている。これらのハイライトはあくまで例示的な目的で提供されており、個々の投資家による投資成果は異なる可能性がある。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。
 本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本スライドに記載の投資と買またはパフォーマンスにおいて同等であると想定されるべきではない。
 SVF1の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio>に掲載。

26

SVF1の内訳を少しご覧いただきますと、上場銘柄として大きいクーポンは、公正価値で86億米ドルもあります。株価の上昇に伴って、12億米ドル評価が上昇しています。

また、中国のライドシェアリング、中国におけるウーバーみたいな会社で、DiDiも米国の上場が1回クローズした後も取引は行われており、今、公正価値で46億米ドルと成長してきています。

この2銘柄が大きいですが、その他のものも含め、この第2四半期で公開投資先の合計の未実現評価損益が28億米ドルのプラスということです。

SVF2:投資先パフォーマンス

(\$ B)	投資額	公正価値	未実現評価損益 (2024年度Q2)	主な投資先の状況
	0.6	1.0	+0.2	
	0.0	0.1	+0.1	
	0.4	0.1	+0.1	
その他公開投資先	5.0	2.4	-0.4	
公開投資先合計	6.0	3.6	+0.0	
未公開投資先合計	40.6	25.6	+0.8	
SVF2合計	46.6	29.2	+0.8	

Revolut
 ・直近のセカンダリー・セールで
 \$45Bの評価
 ・英国で銀行業ライセンスを取得

Klarna
 前年同期比27%の増収とAIによる業務効率化を実現

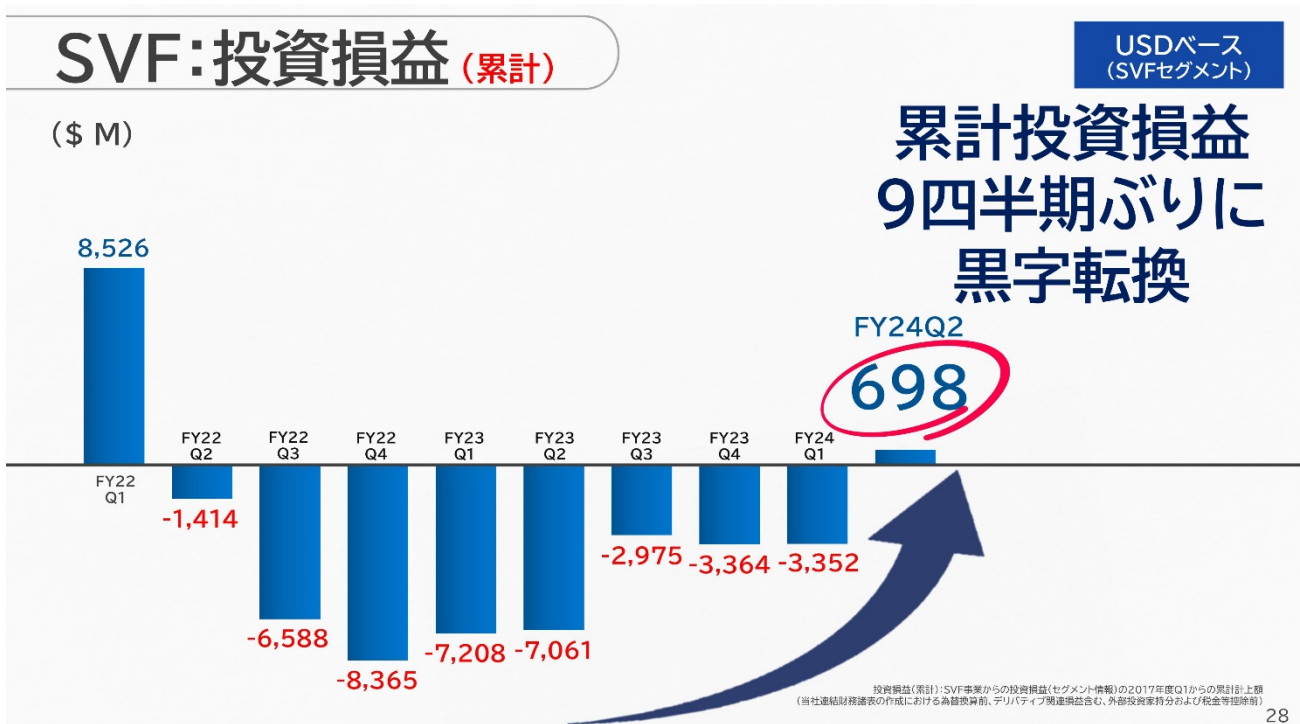
2024年9月末時点で保有する投資の内訳。投資先の公開/未公開の区分は、2024年9月末時点の状況に基づく。
 SVF2のエクジジット前の投資の投資額および公正価値には、投資の取得対象の一部として変換した他会社の非支配株分に係るものを含む。
 Revolut: (出所)Revolutプレスリリース"Revolut announces secondary share sale to provide employee liquidity" (2024年9月16日付)
 Klarna: (出所) Klarnaプレスリリース"Klarna H1 earnings: Compounding growth generates 27% revenue rise, SEK 1.1 billion profit improvement, and over SEK 1 trillion annualized GMV" (2024年8月27日付)
 本スライドに記載の情報は、SVF2についてのみ言及されている。これらのハイライトはあくまで例示的な目的で提供されており、個々の投資家による投資成果は異なる可能性がある。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本スライドに記載の投資と買またはパフォーマンスにおいて同等であると想定されるべきではない。
 SVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio>に掲載。

27

SVF2については、上場先もいくつかようやく出始めていて、大変喜ばしい状況です。が今四半期で損益に貢献した先は、上場株としてはオラ・エレクトリック、クリスタルパイがあります。その他の公開先は、まだまだ公開直後で株価的にはボラタイルですので、上場株がネットでSVF2に大きな貢献をしたわけではありません。

一方で、今回は未公開投資先の未実現評価益が非常に大きかったと思います。多くの未公開投資先の、それぞれの小さな努力の積み重ねで、8億米ドルの未実現評価益となりました。中でも大きいのはレポリュートやクラナ、いずれもフィンテックの会社が非常に好調に推移しています。

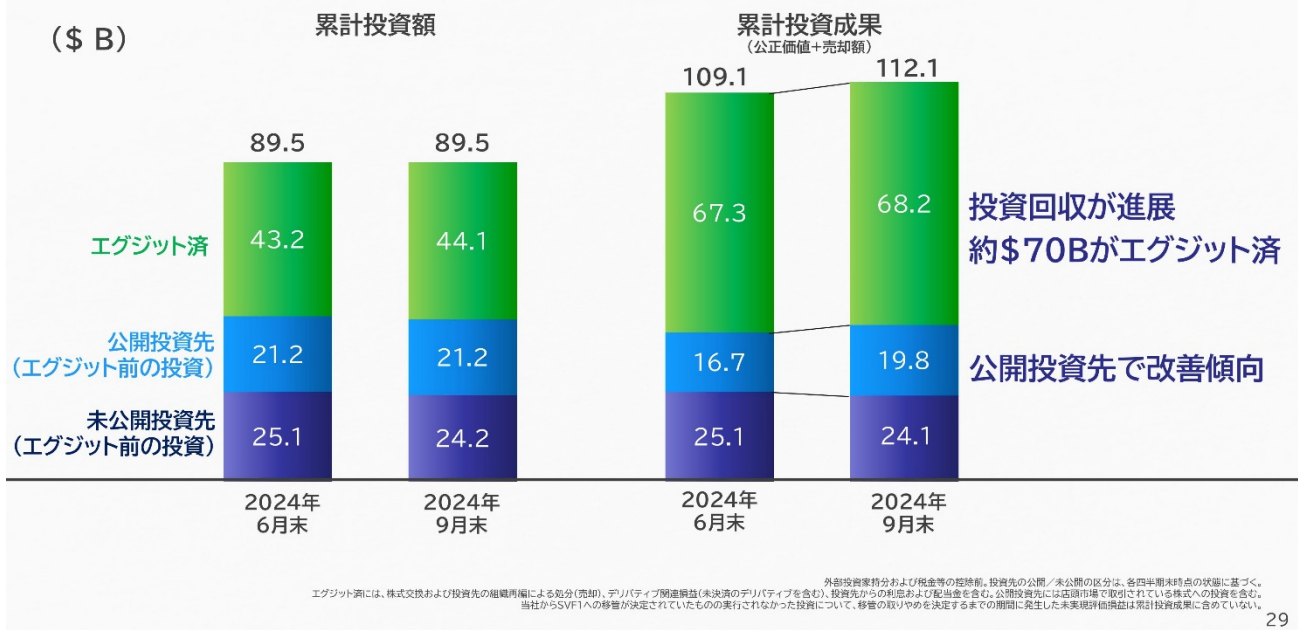
SVF1、SVF2の詳細については、今日もナブニートが来ていますので、この後のアナリスト説明会などで彼からもさまざまな説明をしてもらおうと思っています。



それから、SVFの投資の総括として、今四半期はこの9四半期ぶりの黒字転換というメッセージが、私どもとしては大きなメッセージだと思っています。なかなかこの2年間ぐらい、努力、奮戦してきましたが、いい結果を出すことができました。

今後、まだボラティリティはそれなりに高いと思います。ただ、SVF1は非常に順調で、上場銘柄による評価もだいぶ増えていきますし、SVF2もようやくこれから上場を目指すレイトステージのポートフォリオが増えてきているということで、大いに期待をしていきたいなと思います。

SVF1 : 累計投資成果



SVF1の累計投資成果を今一度ご覧いただきたいのですが、この足元、左側の累計投資額は、すでに投資期間が終了していますので、895億米ドルで変化はありません。

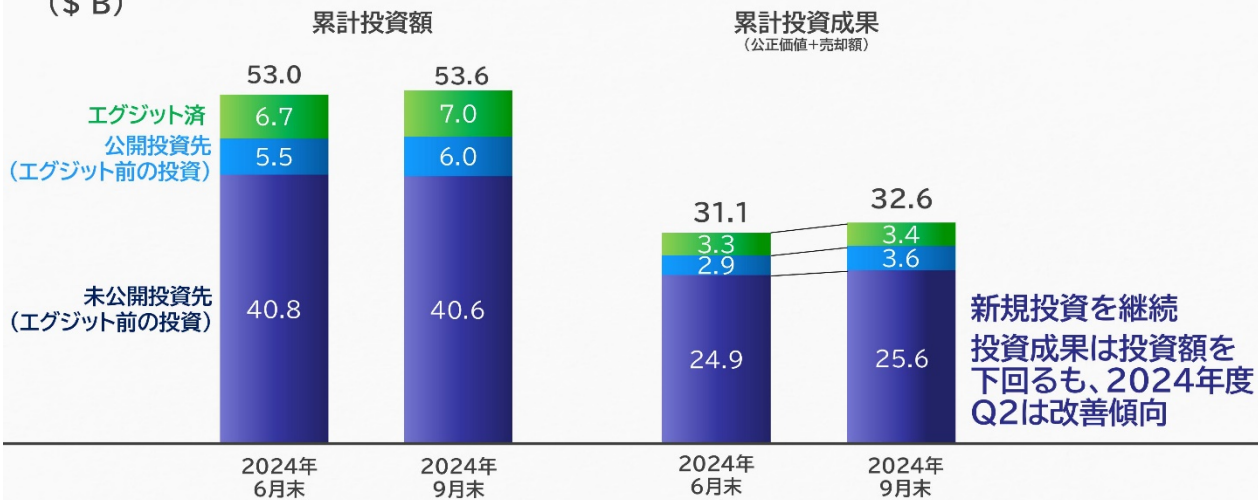
右側は現在の評価ということで、右側の背の高い二つのバーの一番右側が、この9月末の評価で1,120億米ドルということです。6月末と比較していただくと順調に成長しているということです。

緑がエグジット済み、投資回収済みです。そして、真ん中のブルーは上場した公開投資先で、まだアセットとして保有している投資先です。一番下の濃いブルーのところは未公開投資先ですが、この未公開投資先にも、例えばバイトダンス、ファナティクスといった魅力的な銘柄があり、それぞれのバリエーションにかなり期待しています。それ以外にもまだいくつも有望な投資先があります。

累計投資成果がすでに1,120億米ドルまで来ているところから、このSVF1の投資利回りについては、相応の着地が大体見えてきたかなと考えています。このファンドは2029年11月まで、そして最大2回の1年延長オプションがついています。

SVF2:累計投資成果

(\$ B)



外部投資家持分および税金等の控除前、投資先の公開/未公開の区分は、各四半期末時点の状況に基づく。エグジット済には、株式交換および投資先の帰属再帰による処分（売却）、デリバティブ関連損益（未決済のデリバティブを含む）、投資先からの利息および配当金を含む。SVF2のエグジット前の投資の投資額および公正価値には、投資の取得対価の一部として受領した他会社の非支配持分に係るものを含む。

30

SVF2です。こちらは左側の536億米ドルの投資額に対して、なかなかパフォーマンスが伸びない四半期が続いておりましたが、今回、9月末によやく前四半期対比でプラスの326億米ドルの累計投資成果となりました。

こちらはSVF1と比べてみるとお分かりのように、まだまだ未公開のポジションが大きいです。こちらのモニタリングと成長のサポート、新規投資も当然ですが、既存ポートフォリオの成長のサポートが非常に重要と思っています。

株式公開実績と今後のパイプライン

将来の株式公開に向けた強固なパイプラインを確保

株式公開実績(活動開始来累計)

53件

2024年度Q2における新規株式公開

2件

firstcry.com

OLA ELECTRIC

レイトステージ投資先の公正価値合計 \$34B

主なレイトステージ投資先

SVF1

ByteDance

Fanatics

OLA

SVF2 & LatAmファンド

PayPay

Swiggy

yanolja

LatAm ファンド

KAVAK

LatAm ファンド

QuintoAndar

LatAm ファンド

wellhub

株式公開実績(活動開始来累計): IPO件数およびSPACとの合併(Der-SPEC)による株式公開件数。株式公開日に投資した投資先および投資後に金融エグジットまたは上場廃止した投資先を含む。WeWork(金融エグジット済み)およびFull Truck Allianceは、いずれもSVF1およびSVF2からの投資。レイトステージ投資先の公正価値: 2024年9月30日時点でリス・レイトまたは同等のレイトステージファンドについて算出された公正価値。またはSBCGおよびS&I/Aの分社に基づいて算出可能な上市する可能性のあると見られる未公開投資の未実現の公正価値を含む。本スライドに記載の投資は、SVF1、SVF2およびLatAmファンドが共同に出資した。SVF1はまた、本スライドに記載の投資のうちいくつかを、共同出資者として提供している。本スライドに記載の投資の多くは、特定の投資または証券の準備として提供されるべきであり、将来行われる投資が、本スライドに記載の投資が個別にはパフォーマンスにおいて同等であるとは限らない。SVF1およびSVF2の投資先: 最新情報は<https://www.svf1.com>および<https://www.svf2.com>にアクセスしてください。LatAmファンドの投資先: 最新情報は<https://www.lataminvest.com/porfolios>に掲載されています。レイトステージ投資先が将来的にまた株式公開する、あるいはいつでも株式公開が可能であると想定されるべきではない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。

31

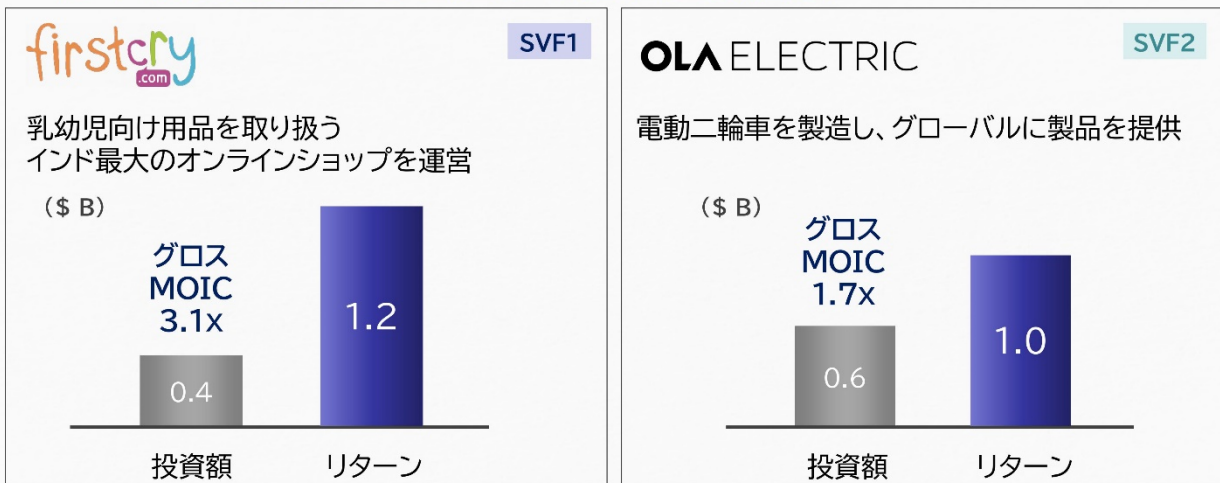
SVFの株式公開実績と今後のパイプラインをご覧ください。左にありますように、これまでに株式公開した投資先が53件あります。そして、この第2四半期ではファーストクライとオラ・エレクトリックの2社が上場しています。

右側のレイトステージ投資先というのは、上場準備に入ってもおかしくないだろうという成長した投資先で、大体340億米ドルくらいの価値があるのではないかなと思っています。

中には、SVF1として、バイトダンス、ファナティクス、あとは、今回上場したオラ・エレクトリックの親会社のオラ。それから、右側のSVF2とLatAmファンドでは、日本のPayPayなどは特に期待できるポートフォリオですし、上場の近いスウィギー、その他いろいろあります。後ほど触れますが、今回、SVF2からオープンAIにも投資しています。

インド投資先:2024年度Q2のIPO銘柄

インド投資先はIPOを通じて価値を顕在化



リターン(取得費用)は2024年9月30日時点の累計実現価値から(未実現価値(グロス)を引いた金額)を算出したものである。本スライドに記載の投資額は、特定の投資または証券の譲渡として解釈されるべきものではない。本スライドに記載の投資は、SVF1およびSVF2が実施した投資のうち、IPOを行った投資を指す。SVF1およびSVF2の投資先に関する情報は、www.svf.comに掲載されている。本スライドに記載の投資全体のパフォーマンス(総額)については、www.svf.comに掲載されている。本スライドに掲載の情報は、投資に関するものではありません。

今回上場した2社、ファーストクライとオラ・エレクトリックは共にインドマーケットでの上場です。ファーストクライは、乳幼児向けの商品を扱うインド最大のオンラインショップを運営している会社です。

また、右側のオラ・エレクトリックは、インド版のウーバーのようなオラグループの中で、電動二輪車、スクーターみたいなものを中心に製造をスタートして非常に評価されている。それぞれ上場後もMOICも安定している二つの銘柄です。

SVF2:2024年度Q2における主な新規投資

AI革命をけん引する企業への投資に引き続き注力

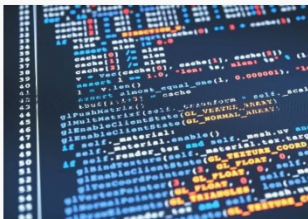
glean

最高レベルの検索機能と操作性の高いAIエージェントを法人向けに提供



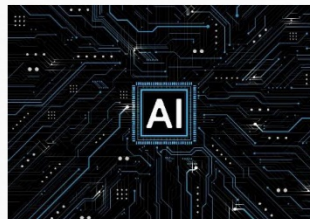
poolside

ソフトウェア開発やコーディング用の生成AIツールを構築し、開発者の作業効率化を支援



OpenAI

AIの研究および高度なAIモデルの開発をリード



2024年9月末時点から過去3か月間にSVF2が実施した主な新規投資を含む。本スライドに記載の投資は、過去3か月間の投資活動を例示するために選択されたものである。本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨または証券の推奨として行われるべきではない。過去の業績は将来の結果を示すものではない。

33

SVF2にもう少し触れると、新規投資は厳選しながらも、少しずつ投資を追加しています。操作性の高いAIエージェント機能が特徴のグリーン、そしてソフトウェア開発や、コーディングの生成AIツールとして評判の高いプールサイド、そして皆さんもご存じのオープンAIといったものが第2四半期での投資実績になるかと思います。

SVF2:OpenAIへの投資

OpenAI

2015年に設立され、AIモデルやサービスの研究開発および実用化を推進

OpenAI

2024年9月のラウンドにSVF2が参加

SVF2
投資額

\$500M

OpenAI
資金調達額合計

\$6.6B

OpenAI
企業価値
(資金調達後)

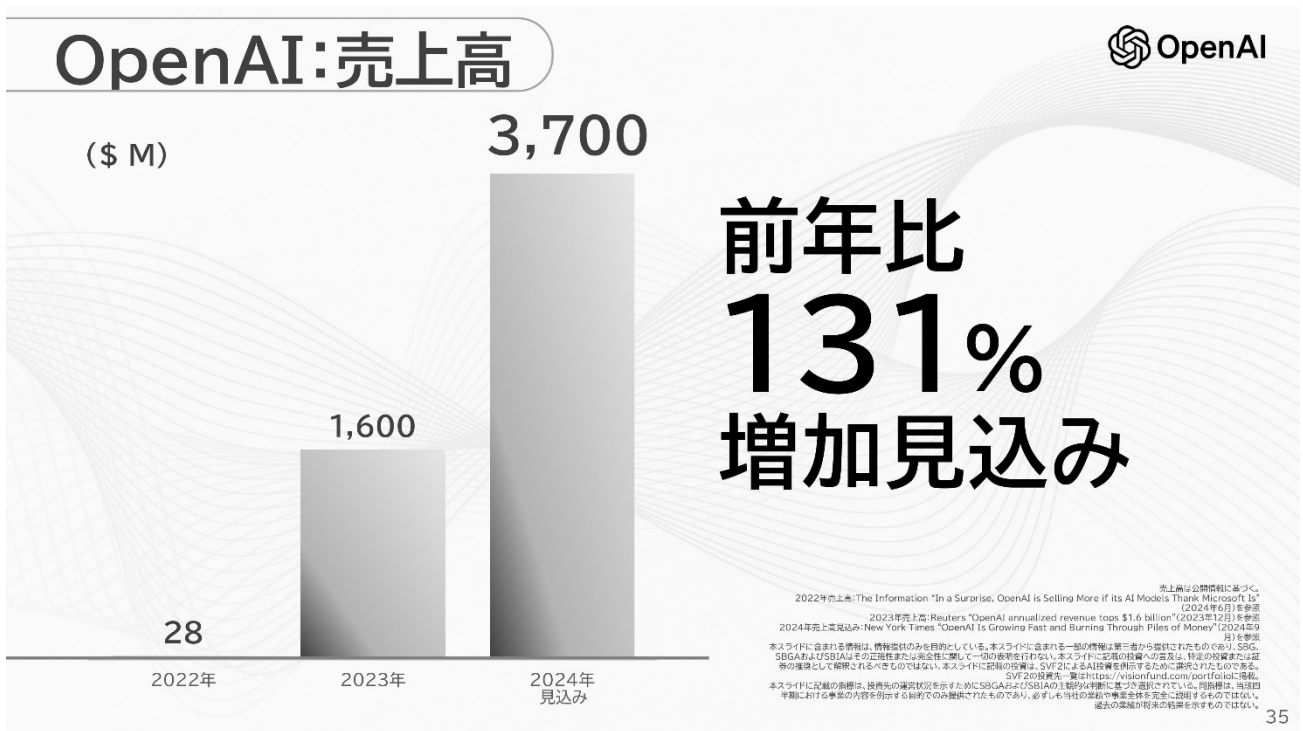
\$157B

資金調達額合計および企業価値(資金調達後)についてはOpenAIのプレスリリース(2024年10月2日付)を参照。本スライドに含まれる情報は、情報提供のみを目的としている。本スライドに含まれる一部の情報は第三者から提供されたものであり、SBG、SBGAおよびSBIAIはその正確性または完全性に築いて一切の表明を行わない。パブリケーションは未実現の推定額を反映したものであり、実際または将来のパフォーマンスを示すものと解釈されるべきではない。エグジット時に投資家に課される税金およびファンド関連費用は除外。本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として行われるべきではない。本スライドに記載の投資は、SVF2によるAI投資を例示するために選択されたものである。SVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio>に掲載。過去の業績は将来の結果を示すものではない。

34

さて、オープン AI について少し、お見せできる数字に限って説明します。今回の私どもの投資額は 5 億米ドルになります。今年 9 月のラウンドで、オープン AI としての資金調達額の合計は 66 億米ドルになります。

そしてこの調達時、私どもが参加したラウンドの資金調達後の企業価値は 1,570 億米ドルと推定されます。非上場企業の想定企業価値としては相当大きいと思います。でも、それだけの技術力とビジネスモデル、企業価値がこれだけの数字になっても当然だろうと私どもは考えています。



売上高は前年比 131%の見込みで、37 億米ドルに達しています。

OpenAI:ビジネス概況



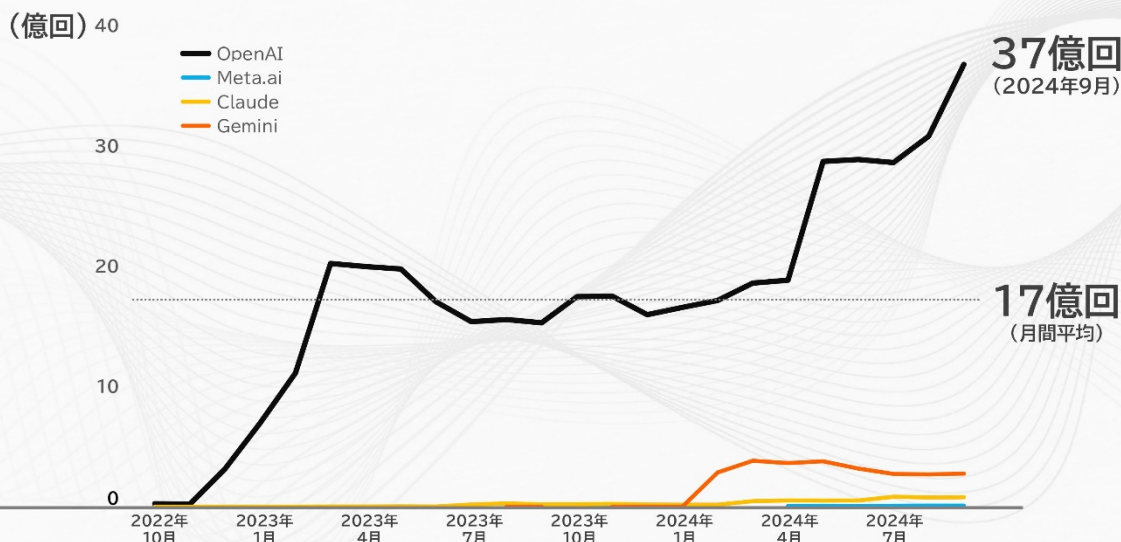
全人類に利益をもたらすAGI(汎用人工知能)の実現に向けて勢いは加速



月間平均ウェブサイトアクセス数: SimilarWebのデータを参照(デスクトップおよびモバイル、グローバル)。OpenAIはOpenAI.com and ChatGPT.comの合計。ClaudeはAnthropic.com and Claude.aiの合計。
 週間アクティブユーザー数: OpenAI Plusリソースを参照(2024年10月)。
 ChatGPT Plus契約者数: Bloomberg "OpenAI Raises \$6.6 Billion in Funds at \$157 Billion Value" を参照。
 本スライドに含まれる情報は、情報提供のみを目的としている。本スライドに含まれる一部の情報は第三者から提供されたものであり、SBG、SBGAおよびUSBIAはその正確性または完全性について一切の保証を行わない。
 本スライドに記載の投資への意図は、当該の投資または証券の推薦として行われるべきものではない。本スライドに記載の情報は、SVF2によるAGI投資を促進するために提供されたものである。
 本スライドに記載の情報は、投資先の運営状況を示すためにSBGAおよびUSBIAの主観的な判断に基づき選択されている。開示情報は、当該開示情報における事業の内容を示す目的でのみ提供されたものであり、必ずしも当該の業績や事業全体を完全に説明するものではない。
 過去の業績が将来の結果を示すものではない。

そして、ビジネスの概況について、ウェブサイトのアクセス数や契約者数などを見ていただきますが、週間ベースのアクティブユーザー数はもうすでに2.5億人に達しています。そして、ウェブサイトのアクセス数も月間平均17億回。また、ChatGPT Plusの契約者数は1,100万人に上ります。恐らく全人類に利益をもたらすAGIの実現に向けて、オープンAIの勢いはさらに加速していくだろうと私どもは予測をして、投資の意思決定をしています。

月間ウェブサイトアクセス数比較



ウェブサイトアクセス数: Similarwebのデータを参照(デスクトップおよびモバイル、グローバル)。OpenAIはOpenAI.com and ChatGPT.comの合計。ClaudeはAnthropic.com and Claude.aiの合計。
 本スライドに含まれる情報は、情報提供のみを目的としている。本スライドに含まれる一部の情報は第三者から提供されたものであり、SBG、SBGAおよびUSBIAはその正確性または完全性について一切の保証を行わない。
 本スライドに記載の投資への意図は、当該の投資または証券の推薦として行われるべきものではない。本スライドに記載の情報は、SVF2によるAGI投資を促進するために提供されたものである。
 本スライドに記載の情報は、投資先の運営状況を示すためにSBGAおよびUSBIAの主観的な判断に基づき選択されている。開示情報は、当該開示情報における事業の内容を示す目的でのみ提供されたものであり、必ずしも当該の業績や事業全体を完全に説明するものではない。
 過去の業績が将来の結果を示すものではない。

競合もいるわけですが、競合との比較を見ていただくと、より鮮明にこの会社の今の力強さを見ていただけるかなと思い、この表を準備してみました。月間のウェブサイトアクセス数比較、17億回が月間平均ですが、足元で見ると9月は37億回のアクセスを記録しています。下にありますのはGoogleがやっているジェミニであるとか、その他、クラウドやメタ、こういったハイパースケールたちの同様の生成系AIサービスを大きく凌駕している現状があります。

このやはり成長性、それから今獲得しているマーケットシェア、この数字はオープンAIとして今後さらに拡大させていくだけの技術力とモデルがあるのではないかと考えています。同社の今後の成長にはぜひ期待していきたいと思います。

SVF:リーダーシップの移行



アレックス・クラベル
SoftBank Investment Advisers (SBIA), CEO
SoftBank Global Advisers (SBGA), CEO

ラジーブ・ミスラの
Co-CEO退任に伴い
アレックス・クラベルが
SBIAおよびSBGAの
単独CEOに

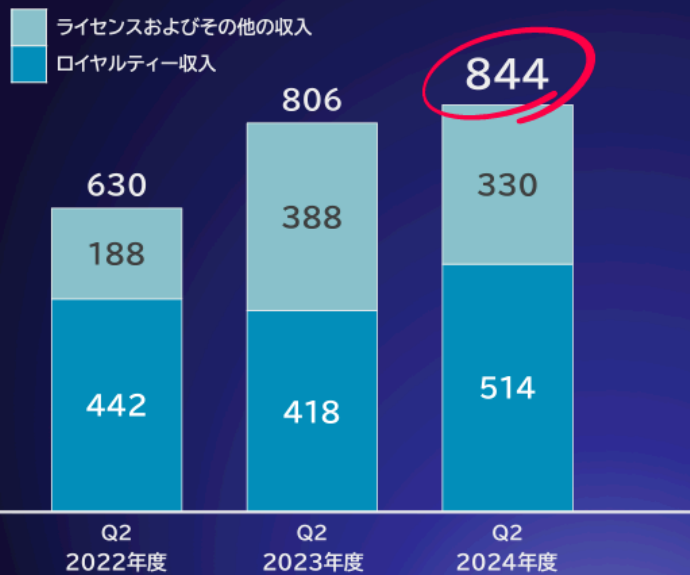
2025年1月1日付
SBGAにおいては従前同様に単独CEOとしての変更はなし 38

SVFの組織変更の中で、ラジーブ・ミスラさんのSBIA Co-CEO退任に伴って、アレックス・クラベルさんがSBIAとSBGAの単独CEOに就任します。

ラジーブは、今後もわれわれソフトバンクグループ、ソフトバンクファミリーの一員として、さまざまな貢献をしてくれるだろうと思っています。CEOの孫さんとももちろん親しいですし、私自身もラジーブがまだインベストメントバンカーだった頃からもう20年以上彼と仕事をやってきました。彼は自分にとって戦友でもありまして、日本人以外としては本当に親しい友人の1人であります。今後も、彼からさまざまなものを勉強させてもらいたいと考えています。

四半期売上高 (米国会計基準)

(\$ M)



2024年度Q2
ガイダンスの上限
\$830Mを上回る

(出所) Arm
詳細は Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照
「ライセンスおよびその他の収入」は「ロイヤルティ収入」以外の収入を指す。

40

さて、アームに移りたいと思います。この直近期も非常に順調です。今回の四半期の売上高が8億4,400万米ドル、こちらはすでに発表しているガイダンスの上限値8億3,000万米ドルというガイダンスをしっかりと上回った実績を出しています。

上期売上高 (米国会計基準)

(\$ M)



前年同期比
20%増

(出所) Arm
詳細は Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照
「ライセンスおよびその他の収入」は「ロイヤルティ収入」以外の収入を指す。

41

また、これは上期で3カ年比較したチャートです。上期の売上高で見ていただくと、前年上期との比較で20%増と、これも非常に満足のいく数字です。

四半期調整後営業利益 (米国会計基準)

arm

(\$ M)



アナリスト
コンセンサスの
\$288Mを上回る

(出所) Arm
調整後営業利益は「Non-GAAP Operating Income」を示す。GAAP基準数値とNon-GAAP数値間の
差異については、Armの「FY25-Q2 Shareholder Letter」を参照
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照
アナリストコンセンサス: Bloombergより、2024年10月15日時点

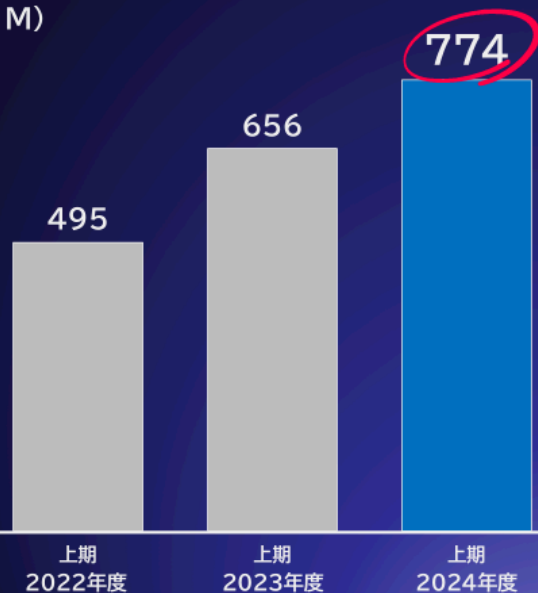
42

そして、また四半期の数字に戻りますが、四半期調整後の営業利益 3 億 2,600 万米ドルは、アナリストの皆さまのコンセンサスをしっかりと上回っていますが、この前年の四半期比で少し減少しているように見えます。

上期調整後営業利益 (米国会計基準)

arm

(\$ M)



前年同期比
18%増

(出所) Arm
調整後営業利益は「Non-GAAP Operating Income」を示す。GAAP基準数値とNon-GAAP数値間の
差異については、Armの「FY25-Q2 Shareholder Letter」を参照
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

43

しかし上期比較で見ていただくと、前年同期比では 18%増という着地で、上期で見た数字の出来は今回も上々と考えています。

この数字をどのように評価されるかは、もちろん投資家、アナリスト、メディアそれぞれの皆さまにお考えがあると思います。株価も引き続き、短期的にはボラティリティの高い銘柄ですが、私どもはアームの中長期の将来を見据えて、この価値向上に努めたいと思っていますし、現在のアームの企業価値や、また今、ご説明したオペレーションのパフォーマンスなどは非常に満足のいくレベルだと考えています。

業績ガイダンス (米国会計基準)		arm	
	2024年度Q3	2024年度	
売上高 前年同期比	\$920M ~ \$970M (+12% ~ +18%)	\$3,800M ~ \$4,100M (+18% ~ +27%)	
調整後営業費用	\$525M程度	\$2,050M程度	
調整後EPS (完全希薄化後)	\$0.32 ~ \$0.36	\$1.45 ~ \$1.65	

(出所) Arm
調整後営業費用は「Non-GAAP operating expense」、調整後EPS(完全希薄化後)は「Non-GAAP fully diluted earnings per share」を示す。
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

また、今四半期でアームから業績のガイダンスが出ています。売上高のガイダンスでは9億2,000万米ドルから9億7,000万米ドル、前年同期比で大体12%から18%の増加となります。また、2024年度の通年のガイダンスは18%から27%の増加というレベルです。これらもご参考にさせていただければと思っています。

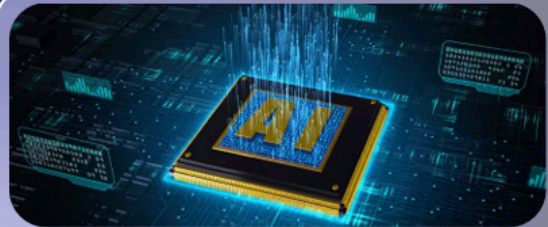
Meta: Llama 3.2 LLM アームベースCPUに対応

優れた拡張性



大規模データセンターから
コンシューマーデバイスまで対応可能

高い性能



高性能かつエネルギー効率
に優れる

Llama (Large Language Model Meta AI) : Metaにより開発された大規模言語モデル
LLM: 大規模言語モデル

45

この四半期のアームのトピックスも少しお話ししますと、まず一つ、メタのラマへの対応が象徴的なイベントだったと思います。メタが開発したAIモデルのラマが、アームCPUに対応するような最適化がなされたと発表されています。

このラマは非常に優れた拡張性を持っているので、スマートフォンからサーバーに至るまで、あらゆるアプリケーションで実行可能になります。アームCPU向けに最適化された今回のバージョンでは、性能が最大5倍までになるということです。結果として、より高度なAIのアルゴリズムをクラウド上だけでなく、自身の端末上でも展開可能になります。

こちらは性能の向上が著しく、操作の高速化も実現できた一方で、消費電力は引き続き削減されており、理想的な状況ではないかと考えています。

IPO後 1年の振り返り

arm

業績は堅調

上期ロイヤルティー収入
前年同期比

20%増加

ライセンス収入は
IPO時の見通しを

大幅に上回る

新技術の 開発・浸透

モバイルに加え、
データセンター向けチップも
Armv9ベース

Microsoft AWS NVIDIA Alibaba
Google Amazon ORACLE

CSS:様々な注力市場
向けに展開

モバイル オート モーティブ データ センター PC

市場評価は 好調



2024年6月 ナスダック100へ採用
2024年9月 SOX指数へ採用

CSS:コンピュータサブシステム。株価チャートはBloombergを基に当社作成

46

さて、アームの IPO から約 1 年が経ちました。少しこの 1 年を振り返りたいと思います。業績は非常に堅調です。一番左の四角になりますけれども、アームのロイヤルティー収入は上期の前年同期比で 20%増加。また、ライセンス収入は IPO 時の見通しを大幅に、本当に大幅に上回っています。

真ん中の技術開発などについては、特に新技術の開発や浸透も相当進んできています。ロイヤルティー収入における、Armv9 の寄与はもう 25%に達しています。また、モバイルだけではなく、主要なハイパースケーラーのデータセンター用チップ、こういったものも Armv9 ベースになってきています。

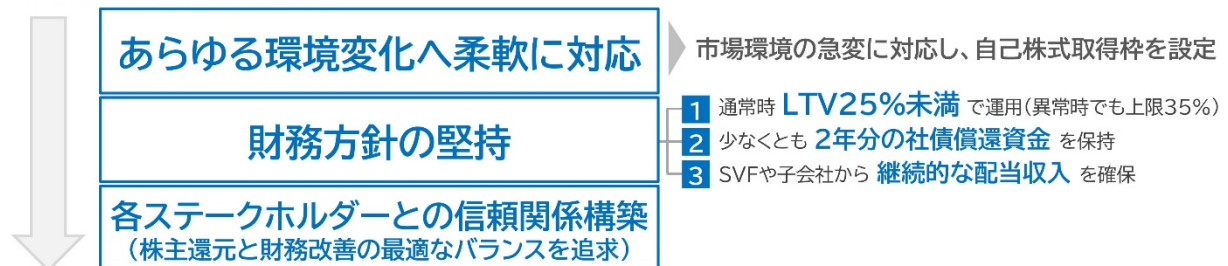
また CSS、コンピュータサブシステムもモバイルだけでなくデータセンターやオートモーティブ、それから PC 向けなどに展開が次々と進んでいます。この CSS を用いることで、ユーザー（チップメーカー）の皆さまに、コストの削減と、市場投入までの時間の短縮、両方を実現することができると思います。お使いいただく企業さまの成長に、大きく寄与できているのではないかと思います。

その結果を受けた市場の評価が一番右ですが、こちらは非常に好調です。上場来株価は 3 倍にまで成長しています。株が今 140 米ドルちょっとですか。150 米ドルを超えて 160 米ドル、170 米ドル、180 米ドルという時期もありましたけれども、これもわずか 1 年の間で起きているボラティリティの話です。今回締めたところで大体 140~150 米ドルなので、3 倍の成長というのは、IPO 後の 1 年間での成長としては、私どもは本当に満足いくレベルということは申し上げられます。

また、今後の株価の、市場でのさらなる安定性を高めていく材料としては、ナスダック 100 への採用や、SOX 指数への採用などはそれぞれ相応に貢献度があるだろうと思います。

2024年度の財務戦略

不変の財務原則



2024年度 財務戦略

将来NAV拡大のための成長投資を最優先

- ・ 潤沢な手元流動性の有効活用
- ・ 戦略投資を支えるノンリコース調達の積極活用
- ・ ポートフォリオのモニタリング強化→回収と再投資

48

さて、最後に財務戦略に少し触れておきたいと思います。前回の本決算のときに皆さまに説明したとおり、この1年間の財務戦略、もちろん内容は基本一切変わっていません。大きなテーマとしまして、この右側に小さい1、2、3と書いてあるLTVや、社債償還資金の保持などはわれわれのポリシーです。皆さまに私たちの会社の安全性を見ていただく分かりやすい指標として、これらの項目、私たちはこのくらいの安全性のイメージを常に持っていますよ、ということメッセージとして出し続けます。

その左側ですけれども、この1年間、あらゆる環境変化にも柔軟に対応していく。そして財務方針もちゃんと保持して堅持していく。これらを各ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を成長させながら、すべての項目を満足させていきたいと思っています。

市場に対して柔軟でありたいし、私どもはエクイティ、それからクレジットそれぞれのマーケットに、そして国内にも海外にも多くのステークホルダーの皆さまがいらっしゃいます。常にすべてのステークホルダーの皆さまの当社に対する期待と、それに対して当社の状況を冷静に、しっかり説明責任を果たしていく。また、今後の期待値についてもしっかり説明をしていくということを常に強く意識して、市場、それからステークホルダーの皆さまと向き合っていきたいと思っています。

私たちは投資会社ですから、キャッシュをどのように使うか。こちらも本当に変わらず同じことばかり申し上げるのですが、資金使途というのは成長資金に回すのか、それとも財務の安全性のために使うのか、もしくは株主還元を使うのかと、この三つの資金使途、これを最適なバランス、ベストミックスというものを追求していくのがわれわれ経営陣の一番のミッションだと思っています。

特に重要なのは将来のNAV、つまり企業価値の拡大のための成長投資、新規投資、これは最優先だと思います。そう言いながら、この数年はあまり大きな投資はしていませんけれども、するための構えを常にわれわれは準備しているということでもあります。

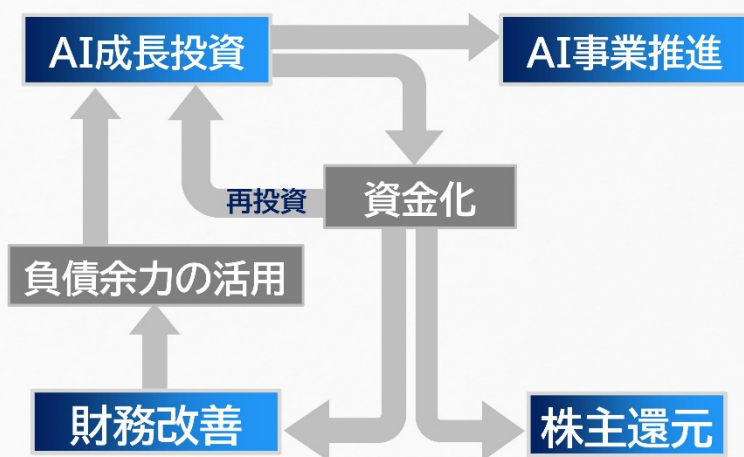
今後、将来必ず間違いなくやってくる、宿命としてやってくる AI の時代に向けた、今投資すべきテーマ、投資すべき企業たち、そしてアントレプレナーたち、こういったもの、こういった方々、こういった企業たちをしっかりとグループ全社で見極め、探しながら、グループの成長をサポートできる一つ一つのプロジェクトに取り組んでいきたいと考えています。

キャピタルアロケーションの基本方針

財務方針を堅持しながら戦略的な資本配分

事業モデル: 資本循環を通じた事業とアセットの成長

現在の取り組み



- 成長投資を優先して継続
- 自己株式の取得継続
- 各種負債性調達を実施
 - ・ 直間比率を考慮した新規ローン調達
 - ・ 手元流動性の確保

49

さて、今申し上げたキャピタルアロケーション、資金の使い道、基本方針をもう1回、ちょっとした図で見てみたいのですが、AIの成長投資の資金はどこから来るかと。投資会社ですから、基本的には常に投資をしている。投資回収して得た資金を新規投資に回していくわけです。

ここがポイントですが、投資するベストなタイミングと、常にどこかに投資しているわれわれがそのアセットを資金化するベストなタイミング、これは絶対一致しないのです。もし回収した資金で必ず投資をしなければいけないというルールを決めてしまうと、あらかじめ資金化しなければいけないですし、また場合によっては資金化が間に合わなかったら投資オポチュニティーを逃してしまうということにもなります。その間を埋めるのが、レバレッジファイナンスです。

ですから、負債余力を持っておくことで、われわれは投資のオポチュニティーを失わずに済むし、素晴らしい投資機会は必ずものにする。そのためには、資金化できる体力、非常に強靱な財務体力を持っておくことで、資金使途に応じたレバレッジを投資家の皆さまからサポートしてもらえます。もちろん返済資金というものは、われわれの持っているアセットからのさまざまな資金化、これを投資家の皆さまにご理解、ご評価いただくわけです。

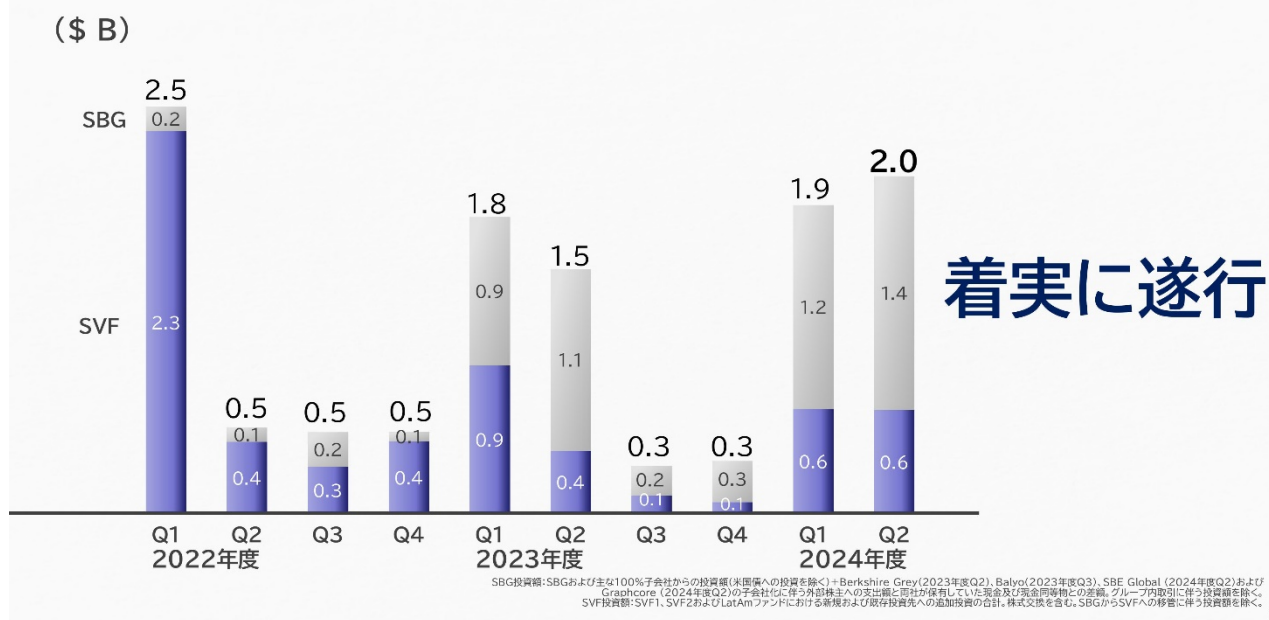
この投資機会を失わないで、われわれの調達の仕組みをベストな仕組みに持っていく。そして、AI事業を推進しながら、さらにわれわれのアセットバリューが増加していき、資金も潤沢になっていく中で、さらなる財務改善と、ステークホルダーへの還元です。ステークホルダーへの還元という

ものは、株主、エクイティインベスターの皆さまへの還元と、クレジットインベスターの皆さまへの還元の両方が重要です。

株主の皆さまには自社株買いであったり、配当であったりという還元の方法があります。一方、クレジットの投資家に対しては財務改善していくこと、より返済の蓋然性を高めていくこと、これが還元だろうと思います。もちろん負債そのものの市場価値を上げていくことも重要です。債券の価値、ローンの価値そのものが投資家にとってより好ましい評価の上昇につながることで、もちろん上昇というのは、結局われわれのクレジットで改善するということなのです。

従って、それはニアリーイコール財務改善ということだと思います。こういったものを三位一体でベストミックスを常に追求していくのが、われわれ経営陣の務めということです。

投資額の推移 (SVF+SBG)



こういう環境の中でのこの上半期、第1四半期と第2四半期の投資実績ですが、おおむね20億米ドルずつです。われわれとしては十分想定範囲内。言ってみれば今年の第3四半期、第4四半期があまりにも小さかったということでもあります。

あとは、決算期ごとに3カ月で区切っていますが、投資というのは意思決定と、それから実際の資金の払い込みというのも数カ月のずれは普通に起きることでもありまして、それらを考えると、四半期単位でどうだったかを見るのはあまり意味がなくて、年度単位ぐらいで見ていくのが全体感を見ていただく上では本当は正しいかなとは思っています。まずは実績としての数字は20億米ドルという状況です。

自己株式の取得



最大5,000億円:2024年8月7日の取締役会で決議された自己株式の取得枠
詳細は、2024年8月7日付プレスリリース「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」を参照

51

そして、前回の決算発表のときにもご説明しました。今回は、ちょうどこの日の始まりに、一応市場の変動としては過去最大の株価の下落があったというようなイベントに対して、私どもは自社株買いというメッセージを即座に出させていただきました。5,000億円という株式取得の枠を設定しまして、10月までで約35%、1,700億円強の自社株買いを実施しています。私どもとしては、1年間という期間の中で十分余裕のある買い進みの状況ではないかと考えています。

2024年度上期まとめ

- 1 純利益は1兆円超。SVFやTモバイルの投資利益が貢献
- 2 NAVは29兆円。2024年度Q1末から減少も、高水準を維持
- 3 SVFは投資利益6,104億円計上、累積投資損益が黒字転換
- 4 アームの業績は引き続き順調
- 5 盤石の財務健全性、AI投資に備えた財務余力を維持

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益
SVF投資利益:ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業ベース

52

今まで説明させていただきましたこの上期のまとめ、総括です。冒頭のチャートどおりですが、総じて本当に数字としては素晴らしい結果を出せたのではないかと考えています。



さて、グループとしては、AI時代に向けて、ソフトバンクグループは何ができるのだろうと。また、AI時代に私たちはどういう世の中を見据えていくのだろうと。それに対してグループで何ができるか、アームを中心としたAIチップ関連のさまざまな技術開発やビジネスモデルの発達といったものも実現していくテーマだと思います。今、多くの生成AIの先駆者たちが、逼迫したデータセンター、そしてデータセンターのための電力に苦しんでいます。私たちが人々の社会におけるAIサービスの推進をしていく上でこういったものを提供するのもしれもののテーマだろうと考えております。

そして、ペッパーでスタートした私たちのロボティクスへの取り組みというのはもう長く、どこにも負けないつもりです。これはさらにAI化して、世の中にさまざまな形で展開していく時期がようやくやってきた。このAIロボットなどのさまざまな領域への投資も次々やっていくべきだろうと思います。もちろんSVFも通じて、ロボティクスに関連する投資もこれまでいくつも行ってきていますが、まだまだ緒に就いたばかりということだろうと思います。

AGIは2～3年以内に ASIは10年以内に 実現する

SoftBank World 2024基調講演より

54

なかなかうちのトップも、まだ決算発表はあまりやる気がないようですが、ときどき出てきます。SoftBank World 2024 で基調講演をしました。AGI 実現は 2～3 年以内、そして ASI 実現は 10 年以内ということで、彼なりの、ASI 実現のための非常にハイレベルな考え方を披露させていただきました。この時間軸も、もちろんさまざまな仮説に基づいています。まだまだ分かりませんが、何年かのずれはあったとしても、この時代がやってくることは私ども人類にとっての宿命であるのは間違いないと思います。

ASIは超知性となり、 人類全体の幸福に 寄与する



SoftBank World 2024基調講演より

55

また、将来的な ASI、超知性の時代に向けて、これはリスク面も含めたさまざまな意見はありますが、人類全体の幸福に寄与するための努力をわれわれは続けなければいけないと、SoftBank World で、ここでお見せしたようなスライドを使いながら、さらなる進化の道筋について孫がお話しさせていただきました。

孫さんの写真の下に、もう一度四つの箱を置いてみました。情報、それが知識となり、その次のステージは知能で、最終的には知性だと。こういったプロセスで、AI は進化を発展させていこうと思います。

そして、右側にありますように、最終的には真ん中で生まれた AI という定義がビッグバン的に拡大していきます。そして、知能から知性へ、そしてさまざまな成長や、もちろんいろいろな障害、摩擦もあります。ぶつかりながらも最終的に人間に寄り添う、そういう存在になっていこうと私たちグループは考えているわけです。そうすることで AI は、やはり人類と調和の取れた超知性へ進化していくのではないかと考えています。

もちろん CEO の孫だけではなく、私たちグループ全社で同じ概念を持ちながら、それぞれの持ち場で、このソフトバンクグループが AI 時代に何ができるのか、このテーマに向き合いながら、グループ価値を向上させていきたいと思っています。



これまで最後のスライドは、荒波の中に船がいたり、見えない荒野の中を歩いていたりするのですが、だいぶ頂上が見えてきたかなと。だけどまだ遠いですね。まだまだ遠い。どうやったらあそこの頂上まで登れるか、登り方もまだ分からないですけども、でも登り方は一つではなくて、いろいろあるだろうと。試行錯誤を繰り返しながら、ぜひ頂上に登るトップグループの一社として成長を続けていきたいし、企業価値も成長させていきたい。そのように思いまして、また進捗につきましては四半期ごとに皆さまにご説明申し上げていきたいと考えています。

私からの説明は以上です。